



# 大 島

—せいしょう君だより—



大島青松園「風の舞」の桜(来園者投稿)

## 大島 —せいしょう君だより— 第 2 号の内容

大島の春	2
第 13 回ハンセン病市民学会総会・交流集会参加記	3
看護の日のイベント	4
盲人会カラオケ大会	5
大島七夕笹飾り	6
大島青松園部署紹介 栄養係	7
大島青松園来園方法	

## 国立療養所 大島青松園の理念

私たちは、入所者の尊厳を守り、入所者の心情を理解し、入所者が安心して生活できる環境を提供します。

## 基本方針

1. 入所者の権利と人格を尊重します。
2. 信頼される医療・看護・介護をめざします。
3. 職員の教育・研修に努めます。
4. ハンセン病の啓発に努めます。

# 大島青松園の春

副総看護師長 土居 明美

瀬戸内の冬の強い海風は、大島青松園へ船舶で通勤する職員にとっては辛い日々ですが、3月から4月になると風の冷たさが変わり、春の訪れを肌で感じることができます。大島青松園の春は、きらきら光る海と青い空、薄墨色の桜のコントラストがとてもきれいな風景です。

今年は、4月初旬まで寒さがぶり返し、桜のつぼみも固くなかなか開花しなかったのですが、中旬以降にようやく開花し満開を迎えることができました。この日は、暖かな日差しの中、園内を散歩しゆっくりと桜を見てまわりました。宗教地区を抜けた桜並木、「風の舞」から桜の木を通して見る瀬戸内の海と島々の風景は、心を穏やかにしてくれます。また、島内には至るところに、入所さんが植樹された様々な種類の桜があり、日頃できない散策を楽しむことができました。

園内のお花見をしていると入所さんも

車に乗せてもらい、職員と共にお花を見て回る姿や、車椅子で散歩されている姿を見かけます。職員とお話をしながら桜を見ている入所者さんの笑顔は、「春がきたようだなあ」と思い私も笑顔で声をかけさせていただきました。

今年の入所者さんのお花見会は、それぞれの部署で工夫をこらし、入所者さんのお花見弁当と同じものを職員も自ら準備し、一緒に食べながらカラオケ大会を催している部署がありました。また、高齢の入所者さんが多い部署は、ゆっくりと桜を見て一緒に過ごしていました。桜の時期はほんのわずかですが、どの部署も春が来たことを共に喜ぶひと時になっていると感じます。

入所さんと一緒に過ごした看護師・介護員は、来年もまた同じ桜を見られるようにと思いながら過ごしたのではないのでしょうか。



ハンセン病市民学会とは、ハンセン病に対する偏見や差別を解消し、ハンセン病問題における歴史の教訓を、これからの社会のあり方へ引き継ぐことを目的にして2005年5月に発足した市民団体です。ハンセン病回復者、市民、研究者、医師、弁護士、社会福祉専門家等多くの方が会員に参加しています。交流・検証・提言を活動の三本柱として、毎年5月にハンセン病療養所所在地を中心に各地で総会、シンポジウム、分科会等を開催しています。

今年は、5月19日～21日に第13回ハンセン病市民学会総会・交流集会が全体テーマ「島と生きる」のもと、大島青松園・邑久光明園・長島愛生園を中心に開催されました。そのなかで19日は大島青松園が会場となり約300名の方が来園され、グループに分かれてフィールドワーク・入所者との交流が行われました。たくさんの来園者で混雑しましたが、有志の職員がボランティアとして協力し、スムーズに進行していました。12時30分からは、大島会館で「大島青松園の過去・現在・未来」というテーマでシンポジウムが開かれました。僭越ながら、私が開会の挨拶をさせていただきました。大島青松園の過去は磯野常二さん、現在は森和男さん、未来は四国医療専門学校の皆さんと善通寺東西中学校ボラン



ティアクラブ顧問の山地千晶先生がそれぞれの経験などを話して下さいました。

その中で印象的だったのは、大島の未来についての発表でした。今まで大島の未来についてあまり明るい話題がなかったように思いますが、四国医療専門学校の皆さんは自分達が学んだことを語り伝えていきたいと力強く語っておられました。そして圧巻だったのは、善通寺東西中学校ボランティアクラブの皆さんが制作した大島の未来の姿のDVDでした。

大島ラブストーリー（島ラブ）という映画が大ヒットし、その舞台になった場所として大島にたくさんの観光客が訪れるという設定のとても楽しいものでした。こんなに明るい未来が考えられるなんてと新鮮な思いと希望を感じました。ぜひ「島ラブ」、本当につくっていただきたいものです。

17時30分からはオークラホテル高松に場所を移して、交流会「大島の人を語る」がありました。そこでも若いパワーがあふれていました。塔和子さんや山本隆久さんと交流があった子供たちがその人柄について話してくれました。山本さんが陶芸を通して子供たちを慈しみ、温かく見守ってきたこと、それが子供たちの心に深く届いていることが感じられました。また、介護員の近井真樹子さんがやはり近井さんの子供さんと入所者の方々との豊かな関わりについて発表されました。これらの経験はきっと子供たちの大切な心の宝物となることでしょう。その他に、こえび隊の笹川尚子さんの瀬戸内国際芸術祭の紹介や沢知恵さんの素晴らしいアメージンググレイスの歌とお父様の頃からの大島の教会の人たちとの関わりについてのお話もありました。「胸の泉に」という塔さんの詩の朗読もあり、まさしく関わりが生んだ会といえると思います。この関わりを大切に育てて大島の未来を創っていきたいものです。交流会の後にレセプションがあり、盛会のうちに終わりました

## 平成29年度 看護の日イベント

副看護師長 大藪 隆昭

5月26日に大島会館にて看護の日の記念イベントを実施し、35名の入所者に参加していただきました。

今年は、例年恒例となっている新人職員の紹介に加え、新たにナース川柳を募集しました。予想を上回る約50件の応募が各部署からありました。優秀川柳5句を総看護師長室で選出してもらい、その中から最優秀川柳を当日参加した入所者に選出していただきました。最優秀川柳の「入所者の元気のはかり 食事量」には、賞品の授与もありました。

そのあとは入所者とスタッフが一緒に「水戸黄門」の主題歌を歌いながら体を動かす「水戸黄門体操」や、ストレス解消や



脳の活性化、免疫力アップの効果が期待できる「笑いヨガ」を楽しみ会場が笑いに包まれました。例年になくアットホームな雰囲気の中で行事を行うことができました。最後に、お茶とシュークリームを召し上がっていただき、参加者全員の交流を図りました。

川柳も体操も新しい企画なので入所者が楽しめるか少し心配でしたが、「体を動かすことや笑うことは良かった」と好評でした。大島青松園で売店を運営している西内月花堂のシュークリームも「うまかった」と好評化していただきました。



最優秀川柳の表彰



## 盲人会創立 85 周年記念カラオケ大会について

記念カラオケ大会実行委員会

平成 29 年 5 月 25 日(木)、大島会館に於いて盲人会創立 85 周年記念カラオケ大会が開催されました。

大島盲人会は、ハンセン病は不治の病として恐れられていた時代の昭和 7 年 5 月 27 日、盲人相互の親睦・教養をはかり、自分たちの幸せは自分たちの手で切り開こうという思いから前身である「杖の友会」を結成したことが始まりです。当時は 65 名だった会員も現在では 7 名まで減少しましたが、今もなお精力的に活動をされています。



ほとんどの会員がステージに上がり歌を披露しました  
(歌:島のブルース)

この度は 85 周年の節目ということで、参加 15 組のうち、入所者や職員はもとより、かねてから交流のある徳島県板野町や香川県視覚障害者福祉協会の皆さんにお越しいただき、歌や踊り、寸劇などいつものカラオケ大会とは一味違う雰囲気で大いに盛り上がりました。その中でも今回福祉室職員によって披露した獅子舞は、療養所内に於いて「汚染地区」と呼ばれ患者と職員の居住地区が区切られていた時代に職員地区で使われその後島内の小学校で使われていたものでした。プログラムには組み入れずサプライズ的な演出でしたので、驚きとともに懐かしさを感じてもらい、鐘や太鼓の音にリズムをとって心躍らせていた入所者も多くいらっしまったように思います。そして、最後は来場者みんなで盲人会歌を歌って閉会となりました。

大島盲人会創立 85 周年にあたりまして、会員の皆様のご健康と今後ますますのご活躍をお祈り申し上げるとともに、私たちはこれからも“入所者ファースト”をモットーとし、もっと入所者が喜んで楽しめるようなお手伝いをしていきたいと思っています。



香川県視覚障害福祉協会の皆さんも駆けつけてくれました  
(歌:海・おぼろ月夜)



病棟・治療棟職員による歌と寸劇  
(歌:森のくまさん)



福祉室職員によって今回復活した“ししまい”  
ところ狭しとホール内を舞う

# 大島七夕笹飾り

「生活環境改善チーム会」



今年度から、入所者の生活環境を整備し、生活しやすい環境になるようサポートすることを目的に、介護員がメンバーとなり「生活環境改善チーム」が活動をはじめました。入所者が安全な日常生活を送れ、生活の質が良くなるように、ちょっとした工夫や改善をしています。日々の生活支援をしている介護員だからこそ、気づくことも多くあります。例えば、お茶を飲むための鉄瓶の急須で火傷をした入所者の方がいましたが、鉄瓶は使い続けたいという要望がありました。そこで、お正月に作った門松の残りの竹で鉄瓶の底をカバーする台を作り、少しでも危険が減るようにしてみました。

また、入所者の方に季節を感じてもらうため、大島の竹を使い七夕の笹飾りも作りました。屋内では、例年笹飾りをしていましたが、1か月前から各部署の看護職員が協力して、志向を凝らした笹飾りが出来上がりました。長寿を祈る折鶴、豊年豊作大漁を祈る網飾り、仙台七夕飾りのような吹き流し等を5mの大きな竹で飾り付け完成です。梅雨の晴れ間に風を受けて揺れる景色はとても綺麗で、入所者だけでなく職員にも喜んでもらえたと思います。笹の葉の擦れ合う音は、神様を招くとされ、笹は神聖なものとして扱われてきました。七夕の願いごとにも神聖な笹に吊すようになったそうです。入所者の皆さんに短冊を書いていただきましたが、健やかな生活を望む言葉や今後の希望、天に居る方を偲ぶ言葉、職員への感謝の言葉など願い事の一つ一つを読むと願いが天に届いてもらいたいと感じます。

今後も、身近にいるからこそできる生活環境の改善と共に、季節感を感じることで入所者の皆さんが喜び、楽しみにしてもらえ活動が続けたいと思います。



## 大島青松園 部署紹介

### 第2回：栄養係

今回は栄養

大島青松園の各部署を紹介します。第2回目は、入所者さんの生活に欠かせない、食を支える栄養係です。

栄養係では毎食約 60 人分の食事を提供し、入所者の皆様に安心・安全で喜んで食べていただけるような食事づくりに日々取り組んでいます。そして年間 35 回以上の行事食、週 3 回の選択食を実施しています。行事食として国民の祝日、お花見、創立記念日、各種宗教による記念日、お盆、お正月、クリスマス等に、折り詰め弁当、幕の内弁当、ちらし寿司、押し寿司、きつね寿司、巻き寿司、おこわ、おせち料理、ケーキなど提供しています。

栄養係は平成 29 年 3 月 15 日に新しい給食棟へ引越しをしました。厨房機器では電気スーパースチーム、電気ティルティングブレージングパン、電気フライヤーなど新しい厨房機器が入り、また衛生管理に重要な空調システムが一新されたため、より良い調理が出来る環境が整いました。機器類などの改善のみならず、調理師はより美味しくより食べやすい食事について日々自己研鑽をしています。今後も栄養係では入所者の皆様に喜んで食べていただけるよう食の安全とおいしい食事を目標に日々取り組んでいきたいと思ひます。

#### 栄養係紹介



新しくなった給食棟



栄養係職員



#### 行事食のいろいろ



## 選択食



## 大島青松園来園方法

見学をご希望される方は、下記へご連絡、またはホームページをご覧ください。  
連絡先：国立療養所大島青松園福祉室 電話：(087) 851-2826 (内線 6150)  
ホームページ：<http://www.hosp.go.jp/~osima/>



大島青松園への来園には、  
官用船が利用できます。

## 船舶運航時刻

	大島港発	高松港着		高松港発	大島港着
1 便	8:40	9:00	1 便	9:10	9:30
2 便	10:30	10:50	2 便	11:15	11:35
3 便	13:25	13:45	3 便	14:00	14:20
4 便	15:00	15:20	4 便	15:30	15:50
5 便	16:30	16:50	5 便	17:00	17:20

### — 編集後記 —

「せいしょう君」の紹介：

広報誌名「大島-せいしょう君だより-」にもなっている、せいしょう君は平成 14 年に職員がデザインし誕生した大島のマスコットキャラクターです。大島青松園は、側面から見たらかわいいひょうたん型をして瀬戸内の海に浮いている小さな島です。四国本土との橋の願いは、入所者・職員の永遠の思いであります。その思いは、7色の虹のかけはしとなり、せいしょう君がニコニコと微笑んでいます。



【発行元】国立療養所大島青松園 住所：〒761-0198 高松市庵治町 6034-1 ☎ (087) 871-3131  
【発行責任者】岡野美子 (副園長) 【企画・編集】広報委員会